

ジャンボ渡辺の学 富士山学

世界文化遺産に登録された富士山では、環境保全など様々な対策や制度設計などは、環境省や文化庁などの国の機関か、山梨、静岡両県によって実施されています。富士山の現場で発生している様々な問題に対して直接的に関わりたいと希望するNPOやボランティアが、気軽に参加、協力できる仕組みは不十分です。

一方、アメリカでは国の予算不足を補うためにNPOが活動しています。昨年12月下旬、NPOと行政との協働の仕組みを学ぶために、米国のワシントン州のマウントレーニアやカリフォルニア州のヨセミテ、アリゾナ州のグランドキャニオンなどの国立公園を訪れました。

NPOの活動 米では



渡辺豊博さん

国の予算不足補い寄付も

シアトルでは、「ワシントン・パークナショナル・ファウンド」が1993年に設立さ

らました。マウントレーニア国立公園など三つの国立公園で資金調達し、毎年約7千万円を国に寄付しています。主な資金調達の方法は、個人からの寄付金が1400万円▽レーニア山などが描かれた車用ナンバープレート販売収益

が1700万円▽宿泊施設で1泊あたり3ドルの任意募金で8百万円▽企業からの寄付金が1900万円などです。国に寄付することで税制上の優遇措置が受けられます。

NPOは運営資金も寄付でまかない、ボランティアを募ったり、登山道の修繕や貴重動植物の保護活動、後継者育成プログラムなどを実施したりしています。

ヨセミテ国立公園の「ヨセミテ管理委員会」は1923年の設立。年間約4百万人が訪れる公園内の清掃活動や自然観察会などを実施しています。

グランドキャニオン国立公園には、年間約450万人が訪れます。32年設立の「グランドキャニオン国立公園で自然観察会を開くボランティアレンジャー」(左端)は渡辺豊博さん提供

「グランドキャニオン愛護会」は、野生動物の保護や施設整備、観光ガイドサービス、地域の歴史文化の啓蒙活動などを行っています。ピジターセンターのガイド役は、人材育成プログラムで育成されたボランティアレンジャーが担っています。

富士山には現在、多様で複雑な課題があります。行政や専門家だけの取り組みでは限界があります。NPOやボランティアによる、新たな人的・資金的・専門的なネットワークづくりが補完的な仕組みとして必要とされています。

富士山を描いたナンバープレートの導入と販売によるNPOへの資金提供や富士山ファウンドの創設、支援ボランティアの人材育成プログラムの構築、NPOが運営するピジターセンターの開設など、NPOと行政との新たな協働の仕組みづくりが求められています。

(わたなべ・とよひろ) 都留文科大教授